

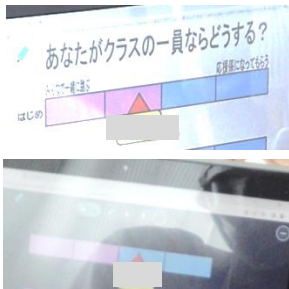


大原中学校 公開授業 第3学年3組 指導者 菅 正樹 先生
道徳科 よりよい学級集団をつくる「みんなで跳んだ」(フジテレビ『エチカの鏡』より)

【主眼】 学級や学校の一員であることの自覚を促すとともに、相手の個性や立場を尊重し深い思いやりの心をもって集団の在り方について多面的・多角的に考えることができるようにする。

【タブレット端末の主な活用場面】

①



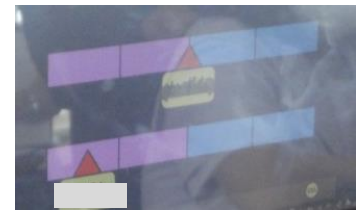
本時資料は、学級対抗の長縄跳び大会に出場するにあたり、クラスの障がいのある1人の友達の大会への関わり方について、葛藤する場面が位置付いたドキュメント映像資料です。発問1では、「みんなで跳ぶか」、「応援係になってもらうか」考えさせ、「心情メーター」で自分の考えの立場を視覚的に表現させました。併せて、そう考えた理由をノートに書かせました。

写真上の心情メーターでは左(みんなで跳ぶ)に△を寄せて表しています。写真下は、右(応援係になってもらう)に寄せています。

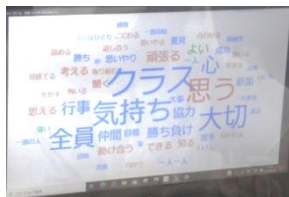
②



端末を見せ合いながら対話しています。このグループでは、立場が分かれ、「なぜそう考えたの?」と関心を高めて問いかけていました。交流後、考えの変化を再び「心情メーター」に表現させました(右写真下)。



③



授業の後半、再びドキュメント映像の続きを視聴させ、「どうしてクラスの友人は跳びながら涙が出たのだろうか?」と問いかけ、考えを交流しました。学級集団の高まりにふれる意見が出されました。

左は終末で各生徒の「まとめ」をロイロで提出・集約後、「A I テキストマイニング」アプリでキーワードが自動編集されたものです。

<大原中学校のタブレット活用の特長>

○ **日常的にタブレットが活用されることで生徒の操作スキルが高まっている。**

「各教科等での授業はもとより、生徒の日常生活の中で、主体的なタブレット活用が浸透している」そうです。子どもたちは、身の回りのいつでも取り出せるところに端末を置いており、時間のある時は思い思いに使っている。また、生徒会活動の提案や協議、報告等の場においても指示をするまでもなく自分たちでタブレットを持ち出して話し合いを整理したり、先生の所へタブレットをもって報告に来たりする姿が日常になってきているとのこと。

このような積み上げを基盤に、授業で生徒達は全く滞ることなく自然に使いこなしていました。

○ **タイピングスキルが高まっており「書きまとめる」のが速い。**

生徒達は両手でスムーズにキーボードを打ち込んでいました。毎日持ち帰って自宅での学習に端末を使っているのでタイピングに慣れてきているということです。また、「小学校で鍛えてもらっているため、今年の1年生はさらにタイピングが速い」ということでした。

小中9年間の系統的な情報活用能力育成の大切さを思いました。

○ **校内研修テーマを意識したICT活用により授業の質が高まっている。**

大原中学校の校内研テーマは、「考える力を育む学習活動の創造 ～目的・場を明らかにしたICT活用を通して～」です。本時では、①「考えの立場のちがいに着目して対話を促進するため」②「自分の考えの変化を再表現して比較し考えを深化させるため」③「まとめの記述に表現された自分たちの学びのキーワードを意識させるため」など、目的を明確にしたICT活用がなされました。

上記3つの特長とともに、全体を通して感じたのは、大原中学校生徒の『心の育ち』です。

機械をコントロールするのは「人の心」です。自分も相手も「幸せに生きる」ためにデジタルを使いこなそうとする、そんな心を日々の教育の中で培っていきたいと思いました。(秋永)

参加者の感想

- 心情メーターとAIテキストは、生徒自身の自己内の考えを可視化することができるのでスムーズな活用だと思った。
- 道徳の授業の中でいかにICT機器を活用していくかという点でこれまで実践してきたことと、ICTの便利さのバランスがよくとても参考になった。授業実践を見せていただけなのが学びになると感じた。
- タブレットを効果的に活用していくために、どの場面に焦点化して使っていくかが参考になりました。子供の思考を深めるためにポイントを絞り、効果的、効率的に授業をされていて分かりやすかった。どの場面で活用すれば効果的になるか事例がたくさんあれば他の先生方も実践してみようと思えるのかなと感じました。



＜福岡県教育センター 宇佐 輝彦 指導主事 による指導助言（要旨）＞

- ・ 子どもたちが、ロイロノート等の操作をスムーズに行っており、タブレットを使い慣れていると感じた。こ本日の授業だけではなく、日ごろからタブレットを使った学習実践を積み重ねられている成果であると感じた。
- ・ ICTは子どもたちの活動が旺盛になるための道具（ツール）である。ICTを活用することで子どもの活動を促し、それが主体的で深い学びにつながる
- ・ ICTを活用することが目的化しないことが大切であるが、大原中学校はICTを活用する「目的」と「場面」を指導案にも明記されており、より効果的な活用につながっている。
- ・ 意見を交流する際、ロイロノートに心情メーターと自分の考えをつなげた状態で提出させれば、自分に近い心情や反対の心情の生徒の考えを自ら選択して確認し、より主体的に自分の考えを再構築できると考えられる。

ICT教育に係る進捗状況及び情報提供

- ◇デジタル教科書：7月から各学校で英語を含む2教科が利用可能です。
- ◇未来シリーズ等：ロイロノートの資料箱から取り出してご活用ください。

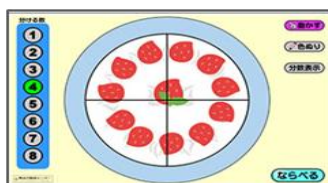
ロイロノート＞資料箱＞福岡県小郡市先生のみ＞未来シリーズ

未来への一歩 (算数・数学) 小1年から中3まで	未来への挑戦 (国語・算数・数学) 小4年から中3まで	未来への架け橋 (国・社・数・理・英) 県立高校入試を活用

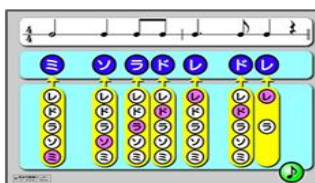
- ◇熊本市教育センターのデジタル教材：子どもたちが楽しく学べる教材が豊富に揃っています。ホームページから開いてご活用ください。（無償です）

小学校 タブレット対応版

国語 算数 理科 社会 英語 音楽 保健 家庭科 体育



（算数：分数ケーキ）



（音楽：旋律作り）

中学校 タブレット対応版

数学 理科 技術 家庭 保健



（理科：生物のからだのつくりとはたらき）